

令和 4 年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立田島南小学校

令和 5 年 3 月 20 日

1 学校運営の中期目標

現状と課題

田島小学校と生野南小学校の 2 校が統合され、田島中学校の敷地に田島南小学校として開校され、小中一貫校としてスタートした。

スローガン「I' ll get my dream. We' ll support your dream. ~つかめ 自分の夢ささえよう みんなの夢~」のもと 3 つの柱「言語力の育成」「性・生教育」「キャリア教育」を軸に学校づくりが始まる。

小中一貫校準備委員会で計画したことを踏まえ、課題を 1 つ 1 つ解消しながら、新しい学校を作っていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査における不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査における前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和 7 年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和 3 年度より 6 % 増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 50%以上にする。
- 規則正しい生活を身に付けている児童の割合の指標として、年度末の校内調査における「(平日) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を令和 7 年度調査において、85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。
- ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。
- 令和 7 年度末の校内調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 規則正しい生活を身に付けている児童の割合の指標として、年度末の校内調査における「（平日）毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、75%以上にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

4月に小中一貫校が開校したものの、既存校舎の改修工事やサブグランドとメイングランド工事等、12月まで工事の中で制限が多い中、できることを嘆くよりも、できることを1つ1つ着実に行うように教職員も児童も取り組んだ。

2つの小学校が1つになることの大変さは、ある程度予想はしていたものの、すべてにおいて1から作り上げていくことは、様々な困難があった。

しかし、児童・保護者・地域・教職員が協力し、それらの困難を乗り越え、1月には、学校関係者の皆様とともに開校記念式典を開催することができた。

【安全・安心な教育の推進】

小中一貫校が開校し、児童が大きな変化の中で、スムーズな学校生活を送ることができるか心配していたが、児童アンケートの結果から「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、目標値を大きく上回ることができた。その反面、いじめに対する意識の低さや不登校生の増加が見られ、学校の課題である。

本校の3つの柱の1つである「生きる教育」については、夏季研修会、土曜授業での授業公開および保護者懇談会、公開授業・講演会などを実施することができた。小中の教職員が一緒に授業を作り、小学校のきめ細かな技と中学校の突き詰める専門性が合致したこと、実践の弱点補強が叶い、本年度もまたリニューアルすることができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

小学校学力経年調査の児童質問紙から「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」や「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」については、目標値を下回り、課題を残した。

また、学力調査においても、「国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。」については、すべての学年で向上はしたものの、目標達成は4年生のみで、5・6年生では達成することができなかった。全市正答率比較では、3年-7.2ポイント、4年-1.8ポイント、5年-4.3ポイント、6年-2.2ポイントであり、課題を残した。

新体力テストの結果は、握力、反復横跳び、立ち幅跳びの記録について全市平均を上回り、上体おこし、長座体前屈、50m走の記録について全市平均を下回った。

【学びを支える教育環境の充実】

児童アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、10月の調査からは、13.3ポイント改善したが、目標値を22.3ポイント下回った。

今年度の教育DXの活用について、学年によって差がでる結果となった。課題として、ICT機器を扱うための教員の活用スキルに差異がある点、教材・教具の効果的な活用方法が不明確であった点などが挙げられる。次年度以降、スキルアップ、効果的な活用方法を共有するためのICT研修会を多く実施する必要がある。

児童アンケート「読書は好きですか」に対して、目標値を12.4ポイント上回ったが、学年が上がるにつれて、数値が低くなる。小中合同の図書室になり、年度前半は、図書環境の整備を行いながら、読書活動の啓発を行った。年度後半は、新しい本コーナーや図書室の使い方やおすすめの本のポスター作り、本の帯コンクールなどの取組を行った。来年度は、読書集会や読書の木、読書ノート等の取り組みにも活動を広げていきたい。

大阪市立田島南小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート（年 3 回）および相談申告機能を、1 人 1 台学習者用端末を活用して実施する。 ・区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等のいずれかの関係諸機関との連携を週 1 回以上行う。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>「生きる教育」を関連諸機関との連携し、性と生を考える取組みを推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる教育」の学習を全学年で実施する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>インターネット、SNS 等を適切に利活用することについて主体的に学ぶ取組を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きるチカラまなびサポート事業を活用して、出前授業を実施する。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>芸術鑑賞を通して、豊かな情操や感性を養う。</p>	B

指標

- ・事後アンケートにおいて、鑑賞行事について肯定的に回答する生徒の割合を 90% 以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、76.5%であり、目標値を 8.5 ポイント下回った。
日々の指導はもちろん、いじめについて考える日、道徳の学習時間等、毎日の学校生活の中で「誰にでも起こりうる」「どの学年どの学級でも起こりうる」「絶対に許されない行為」など、いじめに対する意識を高めていく必要がある。
- 不登校児童は 7 名。家庭とのより一層の連携と、本人のやりがい(登校意欲・学習意欲)づくりや居場所づくりを行い、改善していきたい。
- 生野南小と田島小の昨年度の不登校児童は 3 名。一貫校としての 2 年目を迎える次年度、より一層の学校・家庭間連携、更なる児童理解を土台に改善していく。

学校園の年度目標

- 12 月実施の児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、91.1% であり、目標値を 11.1 ポイント上回った。
一貫校として開校し、児童にとっては、場所が変わり、初めてのクラス替えなど変化が大きい 1 年であったが、多くの児童がスムーズな学校生活を送ることができた。
今後も更なる児童理解を進め、児童の実態を踏まえての授業改善や行事のアップグレード等によって、学校生活が児童にとってより充実したものになるように努めていく。
- 12 月実施の児童アンケート「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、88.7% であり、目標値を 13.7 ポイント上回った。今後も家庭背景を含めて更なる児童理解を進め、児童の実態に合った外部講師の活用や、各種啓蒙活動を充実させていく。
- 12 月実施の児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合は、68.8% であり、昨年度の 2 つの小学校の平均値を、8.2 ポイント下回った。家庭背景を含めて更なる児童理解を進め、児童の実態に即し児童各々が活躍できる場やそれを披露できる場を増やしていくことで、自己肯定感を高めていくようになる。

【各取組内容の進捗状況】

- ①いじめアンケート実施については、指標の数値目標を達成。
関係諸機関連携については、円滑に連携・活用できている。特に SC については、児童の利用、保護者の利用、ともに進んでいると言える状況である。
- ②生きる教育アンケート結果より、実践・教材への理解度は全学年、ほとんどの児童が肯定的評価をしている。しかし 1 年「知っている大人の人との接し方」や 3 年「『守られない権利』について、どうすればよいか友達と話し合うことができた」については、理解度が低い。ここは重要な部分であるため、展開や教材を練り直す必要がある。
ラスト 3 つの質問は、順に「教室」「学校」「家や童園」が安心できるかを聞いている。そこが安心できないと答えた人数は、「教室」25 人、「学校」23 人、「家や童園」18 人であ

った。高学年は、施設での不具合を訴える児童が多い。質問形態や、アンケート時期を工夫しながら、実態把握を継続していきたい。

7月29日実施の夏季研修会では、カリキュラムやエビデンスを全体共有し、その後、夏季休業中に学年ごとに打ち合わせを重ね、9月には、担当教員だけではなく、担任による授業も実施されたり、入り込みの教員によるサポートがあつたり等、協力体制のもと、一步一歩ではあるが教材の活用法や理念が浸透しつつある。

9月の授業公開日では、277名の保護者に本実践をご参観いただけた。授業への感想を議題とした懇談会では、性に関することや子どもの権利、スマホなど、普段ご家庭では話題に上らないようなことを授業で学ぶわが子の姿をみることができ、よかったです等のご意見をいただいた。今後もこのような形で、保護者・地域に根差したカリキュラムを育んでいきたい。

9月30日の公開授業・講演会では、福祉・医療・心理・行政、そして教育と、多岐にわたり合計135名の方々にご参観いただいた。アンケートにでは、授業提案・授業公開・講演・セッションの全てにおいて、ほぼ100%の肯定的評価をいただいた。アンケートには、現代社会における本カリキュラムの必要性が多数コメントされていた。

一番の成果は、小中の教職員が一緒に授業を作れたことにある。小学校のきめ細かな技と中学校の突き詰める専門性が合致したこと、実践の弱点補強が叶い、本年度もまたリニューアルすることができた。

「生きる」教育は、学校の安全・安心の上に成り立つ。暴言や暴力を許してしまう学校体制ではカリキュラムだけが先走りし、学習内容に関わった、ひやかし・からかい等が起きかねない。また、友だちへの不安感や学校への不信感がある環境で「自己を語る」ことは非常に困難だと考える。事が起きてからの対応のみならず、「(そもそも起こさせない)抑止の方法」と「事後指導(何を学びとするか)」を明確、かつ具体的に検証していきたい。学級経営において、苦労することの1つに重度の愛着課題への対応が考えられる。担任一人が抱えるのではなく、組織的に取り組むことが大切である。

③9月の発育測定時の保健指導にて、6年生を対象に「チャレンジ!ノーメディアデー」と題したインターネットやスマートフォン等の正しい使用方法について指導を行った。

生きるチカラまなびサポート事業を活用し、ネットトラブルに巻き込まれないために大切なことを学んだ。今後も継続して児童にとって更に充実な学びに繋がる取組を進めていく。

④芸術鑑賞は、11月2日に「和太鼓」鑑賞を実施。和太鼓の演奏に興味を持つことができた。目の前で演奏される迫力、体験的に参加できる場面など、工夫された演出に児童が感銘を受けていた。

作品展では、体育館に全児童の作品を展示することができ、保護者とともに鑑賞できる時間も設定することができた。保護者アンケートでは肯定的な回答が92%あり、児童のやりがいも感じられた。小中一貫校として、中学校文化祭の展示見学も行うことができた。

次年度への改善点

上記「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」内に記載。

(様式 2)

大阪市立田島南小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○規則正しい生活を身に付けている児童の割合の指標として、年度末の校内調査における「(平日) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、80%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック化による学校支援事業および区の校長戦略支援予算を活用し、漢検を全学年で実施する。 ・ブロック化による学校支援事業を活用し、5 年生でリーディングスキルテストを実施する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 「がんばる先生支援（グループ研究 A）」を活用して、対話力を育てる「国語科教育」の推進を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「相手の気持ちを考えて話を聞くことができる」の肯定的回答の数値を 80%以上にする。 ・「授業中自分の考えをよく発表している」の肯定的回答の数値を 60%以上とする。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 中学校教員による理数教育を推進する。</p>	B

指標

- ・6年生算数の授業（週3時間）および、小学校5年生理科の授業（週3時間）で中学校の教員との授業づくりを行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、27.3%で、目標値を2.7ポイント下回った。3年生と4年生では、目標値を上回ったが、5年生と6年生で下回った。

学習ではペアやグループでの話し合いを取り入れ、意見の交流ができるようにし、教科研究を国語に設定し、対話的学習な学習を中心に取り組んできたが、目標達成には至らなかった。

○小学校学力経年調査による標準化得点を同一分母同士比較すると、国語科では昨年比が4年+4.3ポイント、5年+0.7ポイント、6年+0.1ポイントであり、4・5・6年を平均すると+1.7ポイントと、全体としての伸びがみられる。

全市正答率比較では、3年-3.2ポイント、4年+3.8ポイント、5年-2.6ポイント、6年-5.3ポイントであり、課題を残した。国語科の授業研究における地道な取り組みを継続し、伸びを追いかけていきたい。

算数科では、4年-1.1ポイント、5年+1.3ポイント、6年-0.4ポイントであり、4・5・6年を平均すると-0.03ポイントであった。

全市正答率比較では、3年-7.2ポイント、4年-1.8ポイント、5年-4.3ポイント、6年-2.2ポイントであり、課題を残した。特に「数と計算領域」が、市平均よりも約5ポイント下回っており、ここでのマイナスポイントがすべての領域に影響しているとも考えられる。また、基礎力-2ポイント、活用力-4.7ポイントであり、授業における両者へのアプローチの仕方にも分析が必要である。

「授業の内容がよくわかりますか」という質問に対し、肯定的評価が国語科では3年88.8%、4年86.1%、5年89%、6年78.7%。算数科では3年82.5%、4年86.2%、5年78.1%、6年79.7%であると、高い数値である。児童の理解力と学力とが一致していないことが明確であり、授業そのものに課題があると考えられる。特に同一分母の伸びが見られなかつた算数科では、習熟度別指導の在り方や、家庭学習の量と質、日々の教材開発など、来年度から本格的に推進していく必要がある。

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、70.2%であり、目標値を0.2ポイント上回った。

3年生は、肯定的に答える児童が少なくなっているため、外国語（英語）を学ぶ楽しさや、「覚えた外国語を使いたい」と思える児童の育成をしていかないといけないと考える。3年生が外国語（英語）に苦手意識をもち、進級し学習内容が難しくなることから、学力の低下につながると予想される。

4年生は、肯定的に答えている児童が大阪市よりは多いが、「あてはまらない」と答えている児童が多くいるため、児童が苦手意識をなくす授業づくりをしていく必要がある。

5年生は、基本的に肯定的に回答している児童が多い。しかし、英語が好きではないと答えている児童が15.6%いることから、苦手意識を取り除くために、普段の授業で自信をもって外国語を話せる手立てをしたり、楽しくゲームをしたりしながら外国語を覚えられる

活動を取り入れた学習をしていく必要があると考える。

6年生は、全体的に大阪市の平均よりも低いため、外国語を学びたいという意欲をつける工夫が必要だと考える。また、学習した外国語を活用したいと思っている児童が少ない。そこで、身近なものや歌から英語に親しみをもち、簡単な英語を話せる手立てをして、外国語を話す楽しさや必要感を持たせることが大切である。

学力経年調査の5年生の平均は77.1%で、市平均と比べると-3.6%だった。本校の児童の誤答が多かったのは、リスニング問題の①聞こえたアルファベットを正しく書く(-23ポイント)②ペットを何匹飼っているか(-16ポイント)③物語の続きの場面を選ぶ(-15ポイント)の3つとなっている。その他の問題については、大阪市と大きく差が開いているものはない。本校の5年生は聞く力が弱いということが考えられる。

この結果から、授業でのリスニングの学習を増やし聞く力を高める授業づくりをしていく必要がある。また、Cネットに外国語を話してもらい、児童が正しい外国語の発音をたくさん聞く活動を多く取り入れて、リスニング能力の向上を図ることも必要だと考える。6年生の平均は71.3%で、大阪市平均より-12.9ポイントだった。本校の児童の誤答が多かったのは、リスニング問題の①買い物での値段のやりとり(-22ポイント)②聞こえたアルファベットを正しく書く(-20ポイント)③ものの場所を答える(-32ポイント)④買い物で何を購入しているか(-24ポイント)⑤単語の暗記(-35ポイント)の5つとなっている。また、その他の問題についても大阪市と比べて20ポイントほど低くなっている問題が多くある。

この結果から、リスニングを通して英語を聞く力を高めることや、実生活で英語を使いたいと思える授業づくりをする必要があると考える。

今年度は、中学校へ入学してからのことを見野に入れ、アルファベットを覚えることを目標に取り組んだ。そのためゲームで単語を覚える活動をしなかつたことや単語を覚える記憶力勝負になったことが児童の意欲向上に繋がらなかつた原因の可能性もある。当学年は4年生の時から外国語に対しても苦手意識をもっていた。このことから、ゲームやアクティブな活動を増やし、児童が楽しく外国語を覚えられる授業をしてもよかつたと考える。

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、64.8%であり、目標値を15.2ポイント下回った。

3年61.9%、4年78.5%、5年60.9%、6年57.8%であり、すべての学年で目標値を下回った。

新体力テストの結果は、男子、女子ともに握力、反復横跳び、立ち幅跳びの記録について全市平均を上回った。男子、女子ともに上体おこし、長座体前屈、50m走の記録について全市平均を下回った。

今年度の取り組みとして、一輪車・竹馬の設置、学級用ボール・フリスビー・大縄の配付、水泳記録会への参加、シナプソロジー校内研修会の実施、なわとび月間の実施、夢授業の実施などした。

数値改善に向けては、新体力テストの研修を活かして、日々の体育の授業における工夫を行い、技能を高めるようにする。

学校園の年度目標

○12月実施の児童アンケート「(平日)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は、83.6%であり、目標値を3.6ポイント上回った。学校だよりやホームページ、学年だより等に加え、元気アップ週間等でも規則正しい生活の励行を行ってきた。

次年度も今年度以上に家庭への啓発や、日々の生活指導を通して児童の生活習慣の改善に努める。

【各取組内容の進捗状況】

①言語活動の充実の取り組みとして、ペアやグループ活動といった場を設定し、どの教科でも対話や会話を取り入れた展開を工夫している。また、その基盤となるような言葉や文の力をつけさせるため、言葉集めのゲームや作文に取り組んだり、友だちの言葉を共有したりしている。

漢検は、2月に全学年で実施する。5年生のリーディングスキルテストは12月に実施する。

漢字検定1年目の本年度、担任と担任外で役割分担し、予定通り事前対策学習および当日の実施をすることができた。低学年を中心に緊張した面持ちで一生懸命取り組む姿から、チャレンジする意義は大きかったと考える。合格不合格に関係なく、児童にとってよい経験となるよう、本番までの過程を大切にしていきたい。

今後の課題として、漢字ドリルを3学期制にすると、前倒しで持ってきてもらう必要があるため、前後期制にするのかなどの検討が必要。

リーディングスキルテストは、5年生で実施。結果（偏差値）として以下に示す。

・係り受け解析 44.7、・照応解決 45.9、・同義文判定 47.1、・推論 45.5、・イメージ同定 46.6、・具体例同定 45、ア具体例同定辞書 44.8、イ具体例同定理数 45.4

経年テストの結果からも、「読むこと」に関する正答率に課題があり、読み間違えによる誤答が考えられる。

のことから次年度以降、メンター研修や自主研修会などで、RSTを見据えた説明文の読み解き方法を共有できる機会が必要だと考える。段落読み解きが困難であれば文章へ、文章が読みないのであれば言語の一つ一つに着目するなどし、読み解きに必要なスマルステップが叶う教材開発を推進していく必要がある。

『主体的な学び』となるよう、国語科のどの領域でも、読み解すべき内容を、教え込んだり型にはめたりすることのないような授業づくりを進めていきたい。

②12月実施の児童アンケート「相手の気持ちを考えて聞くことができていますか」の肯定的答の割合は90.5%であり、目標値を10.5ポイント上回った。

また、「授業中自分の考えをよく発表している」の肯定的答の割合は、66.4%であり、目標値を6.4ポイント上回った。

言語力の向上を目指し、国語科をはじめ、年間30回以上におよぶ授業研究を進めてきた。教科研究では、国語科「話す・聞く領域」における「話す（情報活用）」の分野を6本の授業で検証した。

低学年では、好きな教科や好きな場所をみんなに伝える発表例文をメモと比較しながら読み取り、自分らしい発表原稿を作成した。その際、教科書の型にはまつた窮屈な内容にならないよう対話しながら作成したり、短冊を用いて話す順番を考えたりするなどの工夫が見られた。

中学年では、資料やグラフを活用し、メモをもとにグループで話し合いながら発表内容を練った。視覚資料にはない情報を言語化することに重点をおき、より豊かな表現方法となるようなオリジナル教材の開発も見られた。

高学年では、グラフや表などの資料やスライドとリンクさせながら言語を紡ぐ必要があったので、発表文と資料を行き来できるような教材を見出した。指導書が示す単元の目標が、かなりハードルが高い内容だったので、話したいことを書くことで、一度アウトプットし、児童が自身の話し言葉と向き合うことができるよう促した。

初年度ということで、6本の授業に統一感はなかったが、今後の課題として以下の2点が挙げられる。

- ・「話しことば」を生み出す際の方法（対話で紡ぐ？書いて作る？）
- ・聞き手をどのように育てるか（子どもに教える評価の視点）

メンターの授業研では、様々な教科で児童の話し合い活動が多く見られた。今後、本格的な検討会にしていくには、授業を観る視点となる知識や技術のベースが全員に必要。そのためには、実践授業の領域を絞り、基礎研修を積み重ねるなど、推進する上でのねらいを明確にしていく必要がある。

本年度は、児童理解をしながら、とにかく「やってみる」の1年だった。次年度以降は、研究の理論をしっかりと確立し、教職員で同じ方向をみながら実践と検証を重ねていきたい。

③小学校学力経年調査による標準化得点を同一分母同士比較すると、理科では昨年比が4年±0ポイント、5年-0.1ポイント、6年+1.4ポイントであり、4・5・6年を平均すると+0.42ポイントと全体としての伸びがみられる。1年間で児童たちにけるべき力（学習規律など学習環境面も含む）を分析して明確にし、その力をつけるためにどのようなことを指導していくかなければならないかを考え、実行した結果が出たと考えられる。

全市正答率比較では、3年-6.2ポイント、4年-0.9ポイント、5年-6.9ポイント、6年-6.9ポイントであった。学力経年調査の質問紙の「理科の授業内容はよくわかりますか」に対する肯定的回答の割合を全市と比較すると、3年-13.0ポイント、4年-2.3ポイント、5年+5.8ポイント、6年-22.1ポイントとなっており、およそ標準化得点と相関関係があることがわかる。

今後は、それぞれの学年で発達段階に応じた理科の見方・考え方を育みながら、児童の実態に合わせたわかりやすい授業を開くための教材研究がより必要になる。

今年度は中学校教員による理科（5年生）、算数科（6年生）の授業への入り込みの他、1学期末に中学校数学教員による算数、3学期末には中学校理科教員による理科の発展的な学習を目的とした授業を行うことができた。

来年度は、情報共有、情報分析、教材研究等において、小学校理科専科教員同士および小・中学校理科教員の連携が今よりも求められる。

次年度への改善点

上記「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」内に記載。

(様式 2)

大阪市立田島南小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校） ○年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、75%以上にする。 ○ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。 学校園の年度目標 ○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を、70%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 8、生涯学習の支援】 学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行う。 指標 ・昼休み、放課後は、毎日図書館開館するとともに、玄関ホールに図書スペースを設ける。 ・ブックトラックを活用して、学級や校内の図書スペースの本の入れ替えを行い、読書に親しむ環境を作る。	B
取組内容②【基本的な方向 6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 1 人 1 台学習者用端末を活用し、家庭学習の推進および表現力を養う。 指標 ・全学級で 1 人 1 台学習者用端末を活用し、デジタルドリルや課題に取り組む。 ・高学年で、1 人 1 台学習者用端末を活用し、プレゼンテーションを行う。	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
全市共通目標 ○12 月実施の児童アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合は、52.7%で、目標値を 22.3 ポイント下回ったが、10 月の調査からは、13.3 ポイント改善した。 ○ゆとりの日については、設定しているが、教職員の勤務終了状況からまだ徹底できているとは言えない。 学校閉庁日は、夏季休業期間は 3 日実施。冬季休業期間は 2 日設定し、指標は達成している。

学校園の年度目標

○12月実施の児童アンケート「読書は好きですか」に対して肯定的に答える児童の割合は82.4%で、目標値を12.4ポイント上回った。

これとは別に12月実施の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目に対して肯定的に答えた児童の結果は、3年生76.2%、4年生76.9%、5年生70.3%、6年生54.7%であった。

【各取組内容の進捗状況】

①年度初めは、小中3校から持ち寄った図書の整備と図書館の棚を分類ごとに配置し、学校司書が週4日勤務し、図書館が常時開放することができた。

毎週月曜日には給食の時間に朗読をし、図書への関心を深める取り組みを行った。また、学習に合わせた資料提供や学級文庫を配置し、資料を置けるように整備することができた。年度後半の取り組みとして、新規図書の購入を行い新しい本コーナーを作り児童に案内した。図書委員会の取り組みとして、図書室の使い方やおすすめの本のポスター作りを行った。学校独自で本の帯コンクールを計画し、応募された帯を掲示したり、最優秀賞を決めて個人本棚をプレゼントしておすすめの本を飾ったりした。年間の図書利用数を集計し上位者の表彰を掲示物で行った。

来年度は、読書集会や読書の木、読書ノート等の取り組みにも活動を広げていきたい。また、図書館司書と計画的に調べ学習や学習関連本の購入を検討する予定である。

②今年度の教育DXの活用について学年によって差がでる結果となった。反省として、ICT機器を扱うための教員の活用スキルに差異がある点、教材・教具の効果的な活用方法が不明確であった点などが挙げられる。次年度以降、スキルアップ、効果的な活用方法を共有するためのICT研修会を多く実施する必要がある。

年度後半に、効果的な活用について考えるため、特定の学級で、ICT機器について、多くの実験的活用を行った。内容については、・家庭学習プリントのTeams配布、・音読のTeams活用、・発表ノートの活用、・ポジショニング機能の活用、・MicrosoftWordを用いた国語科の「書く」活動、・体育での追いかけ再生機能の活用、・連絡帳のTeams配信、・音楽教材のTeams配信、・児童の掲示物作成のためのパワーポイントの活用、・navimaの活用である。活用後児童アンケート結果から、SKYMENUの「発表ノート」、「ポジショニング」機能などは児童にとって特に効果的であったことがわかる。また他の活用においても肯定的回答は多くなっているが、本当に効果的であるか更に精査していく必要がある。

課題点として、navimaでの家庭学習が挙げられる。navimaでは単元ごとに問題が自動的に設定され、その問題が出題される。そのため、出題内容・順番が固定化されており、何度も繰り返しても同じ問題が出題されるため、答えだけを覚えて提出てくる児童が複数名いた。「取り組んだ時間」・「正答率の変化」から真面目に取り組んでいるか見抜くことはできるが、活用の際は指導しながら行っていく必要がある。また、児童の困った点として、「Wi-Fiがつながらないことがある」という通信環境の問題点が多く挙げられた。これから先更に教育DXを推進していくためには、つながらなかった等緊急時の対応についても考えていく必要がある。

さらに今年度の問題点・困り感から、次年度以降、・施設使用予定をTeamsスケジュールの活用、・当日の会議等掲示板の内容をオンラインで可視化させる、・会議のTeams開催、・学校配布手紙のTeamsでの配布等を検討する必要があると考える。

次年度への改善点

上記「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」内に記載。